

2017年6月16日

株式会社 富士経済
 〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町
 1番5号 PM0 日本橋江戸通
 TEL.03-3664-5811 FAX.03-3661-0165
<https://www.fuji-keizai.co.jp/>

広報部 TEL.03-3664-5697
<http://www.group.fuji-keizai.co.jp/>

アグリビジネス関連市場を調査

2020年市場予測（2016年比）

完全人工光型植物工場：80億円（63.3%増）

民間企業の栽培事業参入増加による市場拡大に期待

植物育成用光源：43億円（2.0倍）

新設案件におけるLED採用比率の高まりにより市場拡大

総合マーケティングビジネスの株式会社富士経済（東京都中央区日本橋小伝馬町 社長 清口 正夫 03-3664-5811）は、植物工場及び施設栽培において導入される資機材やシステム、サービスの市場を調査した。

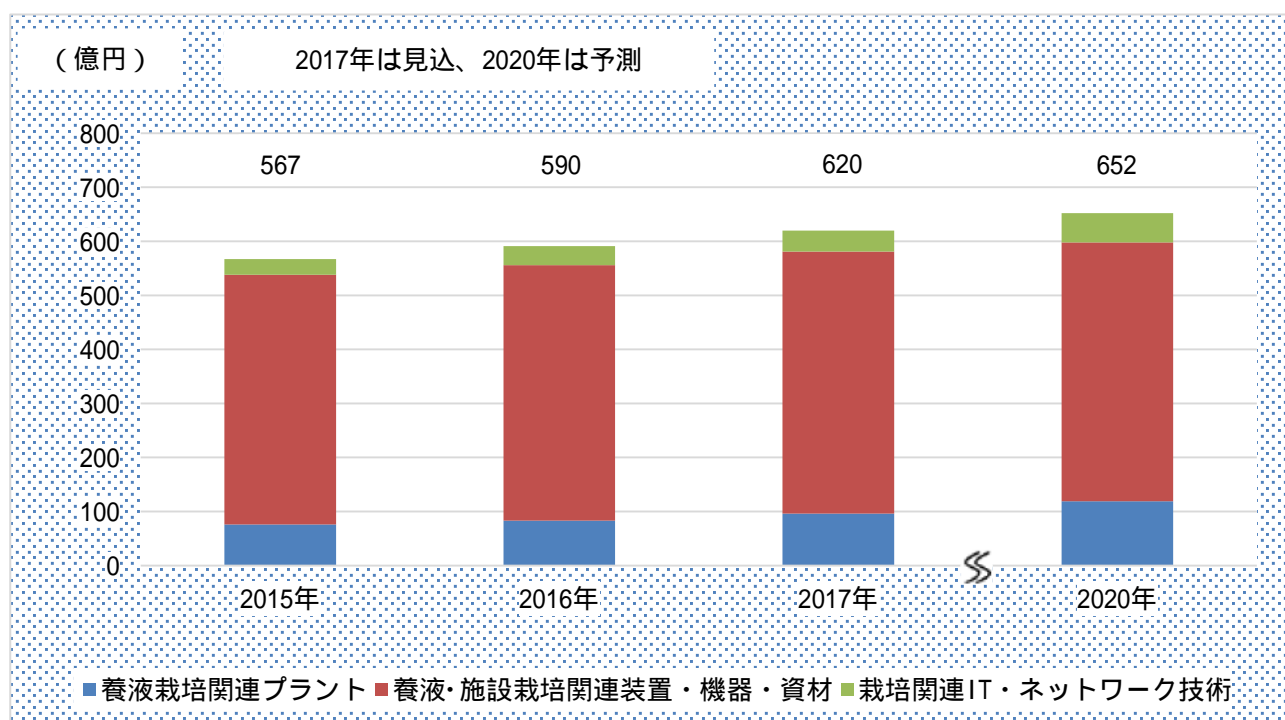
その結果を報告書「アグリビジネスの現状と将来展望 2017」にまとめた。

この報告書では養液栽培関連プラント4品目、養液・施設栽培関連装置・機器・資材6品目、栽培関連IT・ネットワーク技術4品目の国内市場（一部日系企業の海外実績を含む）を調査・分析した。また栽培ビジネスを行う民間企業の事業実態を明らかにするとともに、注目企業の動きや現状の市場実態を踏まえながら今後のアグリビジネスの可能性を検証した。

なお、生産から加工、販売までの一連のバリューチェーンについては「フードバリューチェーン関連市場の現状と将来展望 2017」で徹底分析しており、六次産業化や農産物の品質向上に寄与する機器やシステムの市場、参入する事業者のビジネス事例をまとめている。

<調査結果の概要>

アグリビジネス関連市場



養液栽培関連プラント及び養液・施設栽培関連装置・機器・資機材の市場については、民間企業の農業分野への新規参入や農業施設の大規模化といった要因により拡大した。また、栽培関連IT・ネットワーク技術市場について

では、施設環境制御・モニタリングニーズの高まりを受け急拡大している。こうした背景によりアグリビジネス関連の2016年の市場は、前年比4.1%増の590億円となった。一方で、燃料価格の低下及び電気代値上げなどの影響で、施設栽培向けのヒートポンプ市場が縮小傾向にあること、また関東地方での雪害に伴う復興需要が一巡したことによる施設栽培関連機器の需要減など、市場拡大を阻む要因もみられた。

今後しばらくは、民間企業による栽培ビジネスへの新規参入や農家の法人化に伴う大型施設導入案件が増加し、付随するIT・ネットワーク技術も高度化していくと考えられるため、市場は拡大していくとみられる。

国内農業は、一般の農業従事者の高齢化に伴い耕作放棄地の増加が今後予想されるが、国策としてこれらの農地をいかに有効利用し、効率的な農業生産システムの仕組みを作り上げていくかが、今後のアグリビジネス関連市場拡大のポイントになると考えられる。

<注目市場>

完全人工光型植物工場（養液栽培関連プラント市場）

	2016年	2020年予測	2016年比
プラント型	40億円	60億円	150.0%
ユニット型	9億円	20億円	2.2倍
合計	49億円	80億円	163.3%

四捨五入して億円単位にしている

完全人工光型植物工場は、食に対する安全・安心を求める消費者の増加や、近年の天候不順による露地野菜の価格や供給量の乱高下などを背景に注目度が高まっている。近年小規模プラント導入から期間を経たユーザーが事業の本格化へ向けて大規模プラントを導入するといったステップアップ式のプラント導入が増加している。今後は、こうした小規模プラントからの切り替えによる大型案件需要の増加や、大規模プラント導入に意欲的な民間企業が栽培事業への参入を活性化させることで市場の拡大が期待される。

植物育成用光源（養液・施設栽培関連装置・機器・資材市場）

	2016年	2020年予測	2016年比
蛍光ランプ	3億円	2億円	66.7%
メタルハライドランプ	2億円	2億円	100.0%
高圧ナトリウムランプ	5億円	5億円	100.0%
LEDランプ	12億円	35億円	2.9倍
合計	21億円	43億円	2.0倍

四捨五入して億円単位にしている

2016年の市場は、21億円となった。各種光源からLEDランプへの置き換えが進むとみられ、今後はLEDランプが主要光源として市場を拡大させると予想される。また、LEDランプは完全人工光型植物工場の主光源という従来の主要用途に加えて、太陽光利用型植物工場の補光用ランプとして採用検討が進んでいる。さらに、育苗施設のように厳重な生育環境整備が要求される分野においてもLEDランプ需要の増加が期待される。

環境制御装置（栽培関連IT・ネットワーク技術市場）

	2016年	2020年予測	2016年比
複合環境制御装置	13億円	22億円	169.2%
単機能環境制御装置	7億円	5億円	71.4%
合計	19億円	27億円	142.1%

四捨五入して億円単位にしている

環境制御装置は、「複合環境制御装置」「単機能環境制御装置」に大別される。

2016年の市場は、単機能環境制御装置が、東日本での復興需要及び関東圏での雪害復旧需要が一巡したことにより施設の新設案件が減少したため、伸び悩んだ。一方、複合環境制御装置は政府主導の補助金事業による大型施設整備や大規模農業法人による農業施設の集約・大規模化が進んだことで施設における環境制御ニーズが高まり、需要が大幅に増加した。また、一般農家と比べて資金力があり、高度な環境制御を要求する民間企業の栽培事業への新規参入が増加していることを受けて市場は、前年比11.8%増の19億円となった。今後は、民間企業の農業への新規参入や有力農業法人による施設の大規模化といった動きが盛んに行われるとみられ、市場拡大が期待される。

< 調査対象 >

養液栽培関連プラント市場		
・完全人工光型植物工場 ・固形培地栽培プラント	・湛液型栽培プラント	・薄膜型栽培プラント
養液・施設栽培関連装置・機器・資材市場		
・灌水/給液管理装置 ・固形培地	・栽培用空調機器 ・ガラス/フィルムハウス	・植物育成用光源 ・養液栽培用肥料
栽培関連IT・ネットワーク技術市場		
・環境制御装置 ・スマート農業関連	・環境モニタリングシステム	・生産・販売・物流管理システム/ サービス
栽培ビジネス事例		
・植物工場および施設園芸による栽培ビジネス		

< 調査方法 >

富士経済専門調査員による参入企業および関連企業・団体などへのヒアリングおよび関連文献調査、社内データベースを併用

< 調査期間 >

2017年1月～3月

以上

資料タイトル:「アグリビジネスの現状と将来展望 2017」

体 裁: A4判 224頁
価 格: 書籍版 140,000円+税
PDF版 140,000円+税
書籍版・PDF版セット 160,000円+税
ネットワークパッケージ版 280,000円+税

発 行 所: 株式会社 富士経済
〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町1番5号 PMO日本橋江戸通
TEL: 03-3664-5811(代) FAX: 03-3661-0165
URL: <https://www.fuji-keizai.co.jp/> e-mail: info@fuji-keizai.co.jp

調 査・編 集: 大阪マーケティング本部 第三部
TEL: 06-6228-2020 FAX: 06-6228-2030

この情報はホームページでもご覧いただけます。 URL: <http://www.group.fuji-keizai.co.jp/>

生産に加え、選別・加工、包装・貯蔵、輸送・販売のバリューチェーンを徹底分析した調査資料はこちら
「フードバリューチェーン関連市場の現状と将来展望 2017」 調査結果は7月発表予定です。